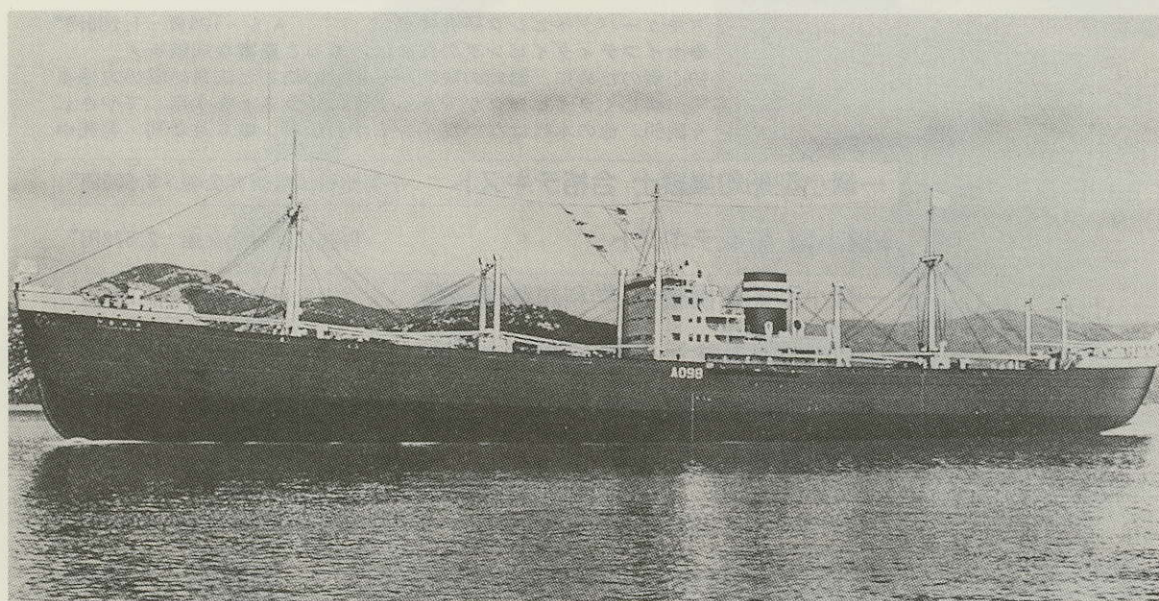


# 浅香山丸

《主要目》貨物船、三井船舶所属、6,757総トン、  
10,517重量トン、主機ディーゼル2基、出力8,800馬力、  
最高速力19ノット、1937年コックムス造船所(スウェーデン)建造

## 戦後初の太平洋短時間横断 記録を樹立した高速貨物船



### 太平洋の「ブルー・リボン」

「ブルー・リボン」とは申すまでもなく、北大西洋横断航路を最短時間で横断した客船に与えられる称号である。

ごく最近まで、「ブルー・リボン」保持船は、米国の章駄天客船「ユナイテッド・ステーツ」であった。同船が一九五二年に樹立した三日十時間四十分(平均速力三五・五九ノット、東航)の記録は久しく破られなかったが、一昨年六月に、シーキャット型双胴旅客フェリー「ホーバースピード・グレート・ブリテン」が、ニューヨーク港外アンブローズ灯台から英国のシリール島ビショップ・ロック灯台までを三日七時間五十四分(平均速力三六・六ノット)で走破。三十八年ぶりに「ユナイテッド・ステーツ」の記録を塗りかえたことは、記憶に新しい。

一方、目を太平洋に転じると、北太平洋横断航路についても、大西洋のような華やかさはないが、「ブルー・リボン」と称しているものがある。ただし、こちらは貨物船のスピード記録である。現在の太平洋における「ブルー・リボン」保持船は、米国シーランド社のSL7型コンテナ船「シーランド・コマース」で、一九七三年に平均速力三十三・二六ノット(東航)という記録を残している。



戦前の記録では、一九三八年十月に国際汽船のニューヨーク航路貨物船「金華丸」が、横浜―サンフランシスコ間を十日十二時間二十九分（平均速力一七・九三ノット）で走ったのが最高で、これは、一九五三年六月に大阪商船の「めきしこ丸」が、十日十時間四十七分（平均速力一八・〇五ノット）で横断するまで、十五年間破られなかった。

ところが、「めきしこ丸」が新記録を達成する前年のこと。戦前の「金華丸」に匹敵する快速で、太平洋を突っ走った船がある。

戦後の高速貨物船隊復興の先駆けとなったこの船の名は三井船舶の「浅香山丸」。炎上した外国船を買い入れ、ニューヨーク航路貨物船として再生させたという変わり種である。

### 前身は遠州灘で炎上した外国貨物船

「浅香山丸」の前身は、ノルウェーの老舗船会社W・ウィルヘルムセン社の貨物船「タリスマン」である。この船は、一九三七年にスウェーデンのコックムス造船所で建造されたもので、当時十八隻あった同社船隊中の最優秀船であったが、一九五〇年五月に静岡県清水から香港へ向けて出航直後、遠州灘で炎上。十日間燃え続けたのち、東日本重工横浜造船所につながれていた。

粗大ゴミ同然となったこの船を、三井船舶はスクラップ価額に近い値段で入手し、横浜から三井造船玉野製作所に曳航。約五億円を投じて修理して、ニューヨーク航路用の定期貨物船として更生させた。

三井船舶が購入前に調査したところでは、炎上船は船体がほとんど駄目で、外板も大部分取り替えを必要としたが、火災発生と同時に機関室に注水したため、主機は無傷という情報だった。同船の主機はMAN型ディーゼル二基。合計出力八千八百馬力。十八ノットは優に出るという高速貨物船であった。

三井船舶がスクラップ寸前の同船に目をつけた最大の理由は、この再生使用可能のディーゼル主機にあった。当時、もしこれと同規模の高速貨物船を新造したとすれば、十数億円を要したであろう。三井船舶は、非常に安い買い物をしたわけだ。

### 太平洋横断十日十八時間三十分

一九五一年六月、六カ月間の修理で再生した「浅香山丸」は、神戸からフィリピンへ向けて初航海の途についた。この時点で、同船に比肩しうる船は、戦前派の「有馬山丸」と「聖川丸」の二隻だけであった。数隻の高速船を含む「第六次計画造船」の船ぶねが就航するのは、その数カ月後である。

高速貨物船の桧舞台であるニューヨーク定期航路が再開されたのは、一九五一年七月のことである。同月十五日付け毎日新聞（夕刊）に、「待望のニューヨーク航路へ三船」という見出しで、航路再開の熱気が伝わってくるような記事が出ている。

「戦後初のニューヨーク航路に今月中に、三四日の間を置いて三ばいの船が次々と就航して国民の期待に応えるが、船の速度やその他の関係から必ずしも早く出帆した船が先に着くとは限らず、〃先着はわが社の船だ〃というスピード化を誇る船会社の意気込みも織りまぜて、いまや三巴の先陣争いが、海運界のにぎやかな話題となっている……」

三ばいとは、飯野海運の「若島丸」、日本郵船の「平安丸」、そして「浅香山丸」である。結果的には、ニューヨーク初入港の栄冠を得たのは、最初に日本を出た三隻中最鈍速の「若島丸」だったが、「浅香山丸」はこの航海で、横浜―サンフランシスコ間十日十八時間三十分（平均速力一七・六二ノット）という戦後初の快記録を樹立したのである。この異色の高速貨物船は、一九六六年に台湾に売却されて「チョン・アン」と改名。三年後の一九六九年に大阪で解体され、三十二年の生涯を終えている。

（山田 廸生）